（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	デイサービスセンター春日和果蘭

公表日　2026年　4月　1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切である。	16	0	利用定員に対して十分に広いスペースがある。	活動スペースを有効活用できるよう環境整備する必要がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	13	3	デイサービスの配置基準に沿っている。	途中上の人員を満たすだけでなく、職員のスキルアップが必要である。
	3	生活空間は、どどもにわかりやすく構造化された環境になっているか、また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	7	バリアフリー化はされており、怪我のリスクは少ない環境である。	目的地への目印や収納など、分かりやすい間取りや動線設計の整備。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	8	本人に合ったパーソナルスペースの確保はしやすい。	机というがメインで、床に座れる環境ではないためのようなスペースを作る。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	16	16	一人で過ごすことのできる空間や静養室のしようの自由がある。	安全に目が行き届く環境づくり。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	7	月に1回のスタッフミーティングの開催の他、毎朝の朝礼時のケース検討、研修の取り組みを行っている。	ミーティングや研修の参加率を上げる必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	10	保護者評価の実施。	回答率を上げる取り組みの必要がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	3	日々の朝礼や業務終了時間の振り返り、月1回のミーティングの開催を行っている。	意見の出しやすい環境づくり、ミーティングの参加率を上げる取り組み。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	16	第三者評価の実施は無し。	必要の応じて実施の検討を行う。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	16	0	毎月1回の研修会開催、その他外部研修参加の皆発。	引き続き実施する。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	8	ガイドラインに基づき支援プログラムの作成を行っている。	引き続き実施する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	16	0	計画期間ごとにモニタリングを行い、利用者や保護者の意向を取り入れた計画の作成を行っている。	引き続き実施する。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15	1	利用者の利用の様子を職員間で行い、課題に応じた支援方法を事業所内で検討している。	引き続き実施する。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	15	1	職員間で共有を行っている。	引き続き実施する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により種組んでいるか。	9	7	社内独自のアセスメントツールの活用、日々の保護者からの聞き取りを行っている。	引き続き実施する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容を踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	6	ガイドラインに基づき放課後等デイサービス計画書の作成を行っている。	引き続き実施する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	9	打ち合わせを行い、日標達成状況を確認して方針の決定を行っている。	引き続き職員間で意見を出し合いながら作成を行う。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	11	職員の意見を取り入れ、固定化しない環境を している。	固定化が必要な内容については意図的に行い、お子様が飽きない工夫を行う。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	12	4	個々のこどもの状況に合わせた計画の作成を行っている。	引き続き実施する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打ち合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	14	2	朝礼時に確認を行い、受け入れ前には担当職員が再度注意事項の確認を行っている。	作業化しないよう細部な打ち合わせを行う意識向上への取り組み。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打ち合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	8	業務終了近くに終礼時間を作り、振り返りや保護者と話した内容の共有を実施している。	作業化しないよう細部な打ち合わせを行う意識向上への取り組み。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	16	0	支援方法の共有や留意点を意識した記録の作成を行っている。	事業所内で記録の内容や作成方法にばらつきが出ないよう、マニュアル化を図る。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	16	0	半年に1回のモニタリングを実施。必要に応じて計画の見直しを行っている。	他事業所での様子をより共有できるような取り組み。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	16	0	生活動作の自立支援に加えて、様々な興味関心を持ち、子供が主体性を発揮できるよう心掛けている。	地域交流を増やせるイベントの企画。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	8	個的で肯定的な言葉かけを行い、自己決定を育てる支援の実施。意思表示を表出できるコミュニケーション支援への取り組み。	引き続き実施する。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	16	0	担当者会議へは管理者や生活相談員が参加している。必要に応じて介護職員の参加や事前の打ち合わせを実施している。	内容は事業所で共有を行っていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	6	必要に応じ、相談支援事業所や他事業所、通学先と連携を図っている。	内容は事業所で共有を行っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	16	0	保護者との情報共有、学校独自の連絡ツールの活用。	引き続き実施する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。				
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。				過去に対象の事例はないが、必要時には情報提供をしていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。				現在実施していないため、今後研修の機会を設けていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。				現在実施していないため、今後交流の機会を設けていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。				
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	0	16	送迎時の情報共有、必要時には手紙での連絡を行っている。	引き続き実施する。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	6	連時電話やメールを使用し、相談のしやすい環境づくりを心掛けている。	研修はないため、今後家族が参加できる研修の開催を検討する。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	16	0	利用契約時に丁寧な説明を行っている。質問等があればその場でお答えしている。	引き続き実施する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	7	利用開始前に、本人のニーズの聞き取り・抽出し、それに基づいた支援プログラムの作成を行っている。懸案面談の実施。	引き続き実施する。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	16	0	面談時に支援内容の説明を行い、同意をいただいた上で保護者の署名をいただいている。	引き続き実施する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	16	0	面談だけではなく、電話やメールでの相談受付け、急な場合でも面談時間の確保をしている。	引き続き実施する。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	16		現在そのような機会が無いため、今後開催の検討をする。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	16	0	契約時に苦情の窓口の室内を行い、適切な対応が行える体制づくりを行っている。重要事項説明書に第三者窓口の記載をしている。	引き続き実施する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	16	0	SNSで情報の発信を行っている。	引き続き実施する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	8	個人情報の記載された書類は、職員のみが出入りする事務所や鍵付きの書庫で保管している。	引き続き実施する。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	6	個々に合わせて個的で肯定的な言葉かけを用いている。	これまでの事例はないが、状態に合わせた視覚支援を取り入れることを検討。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	16		現在その様な機会がないため、今後検討していく。
非常時等の対応	46	感染防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	16	0	各マニュアルの策定、内部研修を実施している。	引き続き実施する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	16	0	ガイドラインに沿った訓練の実施を行っている。	引き続き実施する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	16	0		受入れの事例はないが、高齢者同様、看護師と連携を図って対応する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	16	0		受入れの事例はないが、高齢者同様、医療機関・看護師と連携を図って対応する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。			安全計画を作成し、毎年見直しを実施している。	引き続き実施する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	16	0	安全計画を作成し、保護者への周知を行っている。	引き続き実施する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12	4	ヒヤリハット報告書の作成、その日のうちに再発防止策の話し合いを行っている。	引き続き実施する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	16	0	年間計画研修に基づき、身体拘束廃止検討委員会、虐待防止委員会の開催、研修の開催を行っている。	不適切なケアに関して、毎月のミーティングでも注意喚起を行っていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	16	0	重要事項説明書にも記載し、利用開始時に説明・同意のうえで保護者の署名をいただいている。	引き続き実施する。